

天然ガスの導入で長期的な安定経営図る

有限会社比嘉酒造（読谷村）

泡盛製造業の有限会社比嘉酒造（読谷村・比嘉兼作代表）は昨年10月、工場で使用する燃料を天然ガスへ切り替えた。導入までのいきさつや導入後の変化など、比嘉代表ら3名に話を伺った。

燃料コストの高騰が課題

モンドセレクション13年連続金賞受賞の「残波ホワイト25度」や、国際優秀味覚コンクールにおいて6年連続8度目の三ツ星を受賞した「残波ブリミアム」など、国内外で数々の受賞歴を誇る泡盛メーカー、有限会社比嘉酒造。同社は2018年10月、工場で使う大量の蒸気を作るための燃料として、これまで使用していたA重油から天然ガスに切り替えた。原料米を蒸す工程や瓶洗浄の工程等には、大量の蒸気が必要となる。天然ガス導入のきっかけとしては、この課題をどうにか解決しなければいけない。供給安定性に優れ、価格変動が比較的少ない天然ガスを導入することで、燃料コストに対するその不安は一掃された。

きっかけは沖縄電力の提案

比嘉代表は「沖縄電力の担当から天然ガスの燃焼効率の良さや価格の安定性、CO₂の排出量が少ないクリーン・エネルギーであることなどについて説明を受けました」と当時を振り返る。「これはいいかもしれない」と思った



「みんなに愛される美味しい泡盛造りを目指しています！」工場現場の士気も高い

社屋(左)と工場(右)



地下倉庫の泡盛甕

ものの、県内で天然ガスを利用している企業はまだまだ多くない。かえってコスト高になるのではないかとかいう不安もあったという。

しかしその後、沖縄電力と、天然ガスを供給するプログレッシブエナジー（PEC）が作成した導入計画や試算を見て、導入までの道筋や天然ガスの導入によるコスト面のメリットが明確になったことで「これならいいける」と確信した。比嘉静香取締役は「担当の方に紹介いただいた企業の工場を、実際に見学させてもらつたのも大きかったです。特に同じ読谷村内でいろいろとお付き合いのある企業さんも訪問してお話を聞けたのも、導入の後押しになりました」と話す。

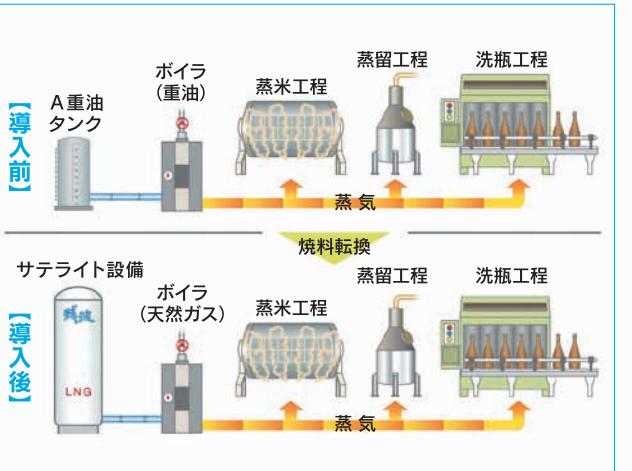
補助金を活用して負担軽減

同社が天然ガスを導入するにあたり、欠かせなかつたのが補助金の活用だ。天然ガスを充填して氣化するサテライト設備（2018年2月設置）は経済産業省から補助金対象経費の1／2、蒸気を作るボイラ（2018年10月設置）は沖縄電力から補助金対象経費の1／3と、それぞれ交付を受けることができた。資料を集め、書類を揃えました。沖縄は中小企業の比率が高く、モノづくりをしていく上



敷地奥に設置されたサテライト設備

最新の高効率ボイラに更新



（左から）製造業務管理部の玉城清斗氏、比嘉代表、比嘉取締役

していけば、互いに情報を共有しながら効率的な設備管理が可能になるかもしれません。同時に地球に優しい業界や地域として、今までとは違ったアピールができるようになると嬉しいですね」と期待を込めた。

お客様のニーズに合った最適なエネルギーをご提案します。

沖縄電力グループでは、電気と天然ガスの最適な組み合わせをご提案し、エネルギーを通じた事業運営の最適化や安定化によりお客様を支援してまいります。

エネルギー診断から、ファイナンスサポート、システム設計・施工まで、エネルギーの利用に関するあらゆるニーズにワンストップで対応しますので、省エネ・省CO₂への取り組み、エネルギーコストの低減等でお困りの際は、下記問い合わせ先までご報ください。

沖縄電力(株) 法人営業部 法人提案グループ

〒901-2602 沖縄市牧港5丁目2番1号
TEL 0120-586-391 内線3485~3490

いわじゅ

検索



QRコード

読み取る

QRコード